

1 受審事業者

経営法人・設置主体（法人名等）：恵那市	
名称：岩村こども園	種別：保育所型認定こども園
代表者氏名：園長 大石 佐緒理	定員：115名
所在地：岐阜県恵那市岩村町1545-1	TEL：0573-43-2209
受審回数： 8回	
評価年月日（評価認定書の記載日）：令和3年3月18日	
継続評価年月日（評価認定書の記載日）：令和4年3月29日	
継続評価年月日（評価認定書の記載日）：令和5年2月1日	
継続評価年月日（評価認定書の記載日）：令和6年2月1日	

2 総 評

<p>◇特に評価の高い点</p> <ul style="list-style-type: none">・保育活動に対する情熱を強く感じることができる。“遊びは学び”の理念を中心に据え、保育実践が幅広くまた深く展開されている。とりわけ「すいすいあそぼうデー」は徹底的にその在り方を希求する姿勢が濃厚で、子どもの本来の姿を導き出しているのではないかと推察されるとともに、当園の特色を色濃く浮かび上がらせていると認められる。・従来から地域としっかりつながっている園であり、園に対する関心が高いなかの保育のため、毎日の連絡帳のやり取りや参観日や懇談会での保護者との話し合いのほか、運営委員会や保護者会で子どもの満足を把握する仕組みが整備されている。・保育時間は早番や遅番があるなかで、家庭的で穏やかな保育を心がけており、保護者とはノートによるやり取りはもちろん、直接対面してお話を大切にすることで、遅番の子どもであっても寂しい思いをさせないような保育を心がけている。 <p>◇改善を求められる点</p> <ul style="list-style-type: none">・市や法人の事業計画を受け、また前年度の反省に基づき、単年度計画の中核となる綿密な保育計画が策定されている。ただ同計画には、保育活動に関わる様々な課題は盛り込まれているものの、収支計画を含む経営に関する課題はやや希薄であり、有り方に関する検証をお願いしたい。また種々の計画において、理念、目標、方針といった項目に様々な内容が明示されているが、上位概念、下位概念が混在しているところもあり、整理されることを希望する。

3 第三者評価結果に対する事業所のコメント

<p>第三者評価を受けさせて頂き、ありがとうございました。分からないことだらけの未熟なところを、分かりやすく教えて頂き勉強になりました。今回学んだことを職員間で共有し、保育や運営に活かしていきたいと思えます。</p>
--

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-3 事業計画の策定

	第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	
I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
<p>前回評価結果：a</p> <p>市の中・長期計画を踏まえ、単年度の計画が策定されており、毎年、職員会で前年度の反省を行い、計画作りを行っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>充実な保育を行うために、各年次会・職員会などで前年度の反省を踏まえて計画を見直し、計画を立てている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>市や法人の事業計画を受け、また前年度の反省に基づき、単年度計画の中核となる綿密な保育計画が策定されている。ただ同計画には、保育活動に関わる様々な課題は盛り込まれているものの、収支計画を含む経営に関する課題はやや希薄であり、有り方に関する検証をお願いしたい。また種々の計画において、理念、目標、方針といった項目に様々な内容が明示されているが、上位概念、下位概念が混在しているところもあり、整理されることを希望する。</p>	
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	
I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>事業計画は保護者会総会で配布し、保護者に説明している。園の全体的な計画は、ホームページに掲載し、周知を図っている。園長が発行している「わくわくだより」でも、計画内容の詳細について丁寧にわかりやすく、保護者への説明が行われている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>事業計画は、保護者会総会にて配布し説明を行っているが、本年度は総会の日が雨の為行事が中止になったので出来なかったが、分からないことは気軽に問い合わせてもらうように知らせてある。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>保護者のみなならず、周辺地域への周知についても、大変こまめにまた適切に行われている。とりわけ、キッズビューを活用しての、様々な案内や通知の方法は瞠目させられるものである。一方、紙ベースによるものも大切にされており、図示したり、写真や絵を多用し、分かりやすさ、読みやすさを大切に、理解を促す努力をしている。</p>	

Ⅰ-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	

I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>恵峰学園の自己評価、市からの評価、園長が行う職員アンケート等さらには、園内の学習会を行うなど、園全体、個々の職員に対し、質の向上に向けた取組が定期的に行われている。保育の質については、全体の学習会や個人学習、保育の実践報告等を通して学んでいる。園内で学習会を行い、日々の保育等について意見交換を行っている。今年度のテーマとして、「非認知能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、全職員で学習をしている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>年2回実践記録を記入し検討会議を開いたり、園内研修で勉強をし、質の向上に繋げている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>第三者評価を毎年継続し受審しており、それを契機として質の向上に向けた取り組みの見直しを図っている。とりわけ検討会議での見直しは頻回に行われている。春秋の定例の他、行事をきっかけとして実施されており、総括的な検討の場である市内の保育関連施設の検討会議は園内研修へと反映させながら、保育の質の向上に向けての取り組みが行われている。</p>	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	
Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>市と連携し、関係法令の改正等、園の運営上必要な法令等については、情報収集すると共に、職員会でも説明し、職員に周知徹底を図っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>市からの遵守すべき法令などは、朝礼で伝えている。朝礼、職員会などで守秘義務に関する指導を行っている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>管理者は、市等からもたらされる情報を、またマスコミ等で喧伝される今日的課題について怠らずチェックし、職員会議での議題とすることはもちろん、朝礼等において全職員に伝えている。さらにはそうした法令の趣旨に則り、保育活動を注意深く見守るよう努めている。</p>	

Ⅱ－２ 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果
Ⅱ－２－(１) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	
Ⅱ－２－(１)－① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>法人として各大学に対し求人活動を行い、必要な人材の確保に努めている。保育教諭を目指す学生を積極的に実習生として受け入れ、丁寧な指導を行うことで確保に繋げている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>保育に必要な人数は、職員と相談しながら事務局と検討を行っている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>従来より各大学への求人活動を行い、また実習生の受け入れも積極的に行っている。さらには独自の奨学金制度も設けているものの、新たな人材確保の問題が払しょくされたとは言い難い状況にある。そのような中、より一層の福祉人材向上のため、現在市当局とのタイアップにより、特別支援コーディネーター育成が始まっている。まだ単独の職種とは成り得ていないが、発達障がい児等の保育を適正にまた保育士の不安を払しょくできるよう、積極的な研修受講を進め、取組みへの一歩を踏み出している。</p>	
Ⅱ－２－(２) 職員の就業状況に配慮がなされている。	
Ⅱ－２－(２)－① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>保育の計画や内容も把握しながら、職員に対し必要な援助がなされている。ベテランが多い中、若い職員も意見を言うことができるよう、管理者が気配りを行っている。休暇の整理簿は、年休の取得状況が一目でわかる様式となっている。職員から相談があれば、園長が面談を行い、悩み等の問題解決に努力している。一般職員が相談しやすい雰囲気がある。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>休暇簿等で就業状況の把握をしている。相談などの希望があれば面談をしたり、日頃から相談しやすい雰囲気を心掛けている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>計画的な職員の意向調査も行われているが、園長・副園長は何より、温かなまた何でも話せる雰囲気づくりに努めている。もちろん職員の動向には常に注意を向けているが、積極的に悩み相談を持ち掛けてきたり、休暇の取得も皆でフォローする、助け合いの精神が発揮され、順調に消化されている。また、職場の不応対に対処するために、法人内で配置転換ができるよう事務局の了解は得られている。ただし現在はそうした心配はない模様である。</p>	

II-3 運営の透明性の確保

	第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	
II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>園の情報は、園だより、園長のわくわくだより、各クラスの通信、ホームページ等、あらゆるツールを活用し、保護者に伝えられている。園の事業計画、事業報告、予算、決算は保護者会総会で報告している（今年度は、書面）。年2回、市の担当課、保護者代表、法人・園関係者で運営委員会を開催し、園運営について、話し合う場を設けている。地域が発行する広報誌である「ほっといわむら」にも、定期的に園の活動内容を掲載している。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>園の情報等は、園だよりや各クラス通信、ホームページで保護者に知らせている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>園の活動の様子は、ホームページ上で知らされているが、一方、園だより等も怠りなく発行されている。とりわけ地域の広報誌「ほっといわむら」には割り当てページが用意されており、必ず記事として掲載されている。しかもその多くは写真入りで、分かり易く親しみを喚起させるものとなっている。</p>	

II-4 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	
II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>地元自治会の広報誌「ホットいわむらだより」に園での遊びの様子や高齢者福祉施設の方々との交流等の記事が掲載されるなど情報の発信に努めている。また、昨年度から自治会の了解のもと「えんだより」が町内の全世帯に回覧（200部提供）されると、地域からも多くの関心が園に向けられるようになるなど、地域交流の促進に期待が膨らむ。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>地域の方々との交流については、保護者の方へお便り等で知らせていく。コロナ禍から地域との交流等が中止になっていっ少しづつ様子を見ながら再開していく方向でいる。祖父母参観も今年から行うようにした。</p>	

継続評価結果	
<p>コロナ禍により停止していた部分はあるが、従来より地域との結びつきの強い園であり、活動も徐々に再開されつつある。とりわけ高齢者のボランティアサークル「あかね会」からは毎年雑巾の寄贈があるだけでなく、一緒にサツマイモの苗付け、芋ほりなどを通して交流がある。またこうした活動の様子は、保護者また地域にお便りや広報誌で伝えられ、よりよい交流の循環を形作っている。</p>	
Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>園と地域や学校をつなぐ、ボランティアや中学校生の職場体験・実習の受入れは、「目的・意義、事前打合せ、準備等」を明確にした手順書を策定している。また、責任者を定め、思わぬ事故等がないよう職員や子どもへの周知に努め、受け入れ体制を確立している。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>将来保育士を目指すきっかけになる様に、クラスに入ってもらい子どもとふれあう機会を設けている</p>	
継続評価結果	
<p>当園では度々、卒園生や、夏休みには市社協を通じて地元の中学生在が遊びに来てくれる。オープンな雰囲気の中で、遊びだけでなく、傍で持ってきた弁当と一緒に食べるなど、園児との触れ合いが行われている。受け入れについては手順書が策定されており、それに従って実施される。ただ、伝統と地域に溶け込み開かれた園の状況を守り続けることは大切であるが、マニュアル的な文書は、常にチェックされ見直されたい。</p>	

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	
Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>理念の中で「個の尊重」を掲げ、支援にあたっては「園児の利益を最優先する」ことを明示し、年度当初に必ず全職員が確認している。年長児クラスを対象に公益財団法人県獣医師会が主催する「命の授業」を開催し、動物への慈しみや、命の誕生、友だち同士の助け合いなどについて学んでいる。また、ことばの遅れや集団活動になじめないなど支援を要する園児に対して保護者からの相談対応のほか、必要に応じて市の発達支援専門機関と連携して対応するなど、園児一人ひとりを大切にする保育等に積極的に取り組んでいる。</p>	

<p>施設の取り組み内容</p> <p>人権に関しての情報誌を回覧し、学習に繋げていく。園の理念「遊びは学び！決めて考えて作り出しなかと育つ子」を掲げ、職員間の共通の理解で保育に向き合っている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>“遊びは学び”の理念を中心に据え、子どもの発達の可能性を「養護と保育の一体化」の中で追及する姿勢が強く感じられる。とりわけ「すいすいあそぼうデー」は徹底的にその在り方を希求する姿勢が濃厚で、子どもの本来の姿を導き出しているのではないかと推察される。決して放置・放任ではなく、手は出さないがしっかり見守り、子どもの発達の促進に寄与する手立てを講じており、保育方法の柱を打ち立てようとしている。今後一層の努力を期待したい。</p>	
<p>Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。</p>	<p>a</p>
<p>前回評価結果：a</p> <p>子どもを尊重する保育にあたり、プライバシー保護マニュアルを作成し、子どものプライバシーに配慮した取組を行っている。また、排泄・水遊び等の施設・設備面におけるプライバシーを守る取組に努めている。市のホームページや園だより等の写真の掲載は、保護者の承諾等の確認を行っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>園の服務規定を年度の初めに職員で読み合わせ、生活の場にふさわしい環境を配慮している。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>全体計画の〔養護〕領域において、「自分の思い」「自分の目的」「自分でできること」と「自分」という言葉が多く使われている。これは保育士の子どもの主体的立場を尊重し、他人の干渉から守ろうとするプライバシー保護へと導く姿勢を示していると考ええる。一方当園では、広く園の活動紹介を行っているが、写真掲載については厳しくチェックをしている。個人情報の漏洩を防ぐとともに、「他人の干渉を許さない」といったプライバシー保護の視点を大切にしている。マニュアルも作成され、一貫して子どもを尊重する姿勢が貫かれていると評価したい。</p>	
<p>Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。</p>	
<p>Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。</p>	<p>a</p>
<p>前回評価結果：a</p> <p>転園等にあたっては、所定の文書を交わし、相手の園と円滑に保育の継続が出来るよう図っている。また、子どもに必要な情報提供を要する場合は、保護者の同意のもと行っている。卒園後の対応は、保護者等が相談を希望した場合の窓口を設けている。</p>	

<p>施設の取り組み内容</p> <p>転園時には必要に応じて文書を送ったり、連絡を取ってスムーズに保育が継続していくよう配慮している。また、転入園児については様子なども丁寧に聞き、保育に活かして行く様にしている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>保護者の同意のもと、転園時には電話連絡、必要に応じて文書による連絡をおこない、保育が円滑に継続していくよう配慮している。また転入園児についても、在園していた様子などを丁寧に聞き取って保育に活かしている。市外の保育園への転園についても情報交換をしている。</p>	
<p>Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。</p>	
<p>Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p>	<p>a</p>
<p>前回評価結果：a</p> <p>市が主導する15項目からなる保護者の園評価や自由意見の募りは、評価結果の報告書を作成し、次年度の園経営や保育の質の向上に結び付けている。また、園独自の保護者アンケートの実施や保護者との個別懇談、送迎時での対話等を通して要望等を把握し、組織的に保育の改善に向けた取組を行っている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>参観・懇談など保護者が参加する行事においては、通信等で感想を書く欄を作っている。保護者から寄せられた意見は、職員会で周知している。内容によっては、保護者会の役員、運営委員会で検討を行う事もある。苦情申出箱を設置し解決の方法を明記した文書を配布している。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>日々の送迎時の声掛けやシール帳、お便り帳で保護者との意思疎通を図っている。行事の際には感想をお手紙でもらうよう心掛けている。苦情申出箱の設置をはじめ、年3回の運営委員会、参観日や懇談会の開催などの意見交流の場を設ける等、利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し取り組んでいる。</p>	
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。</p>	
<p>Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p>	<p>a</p>
<p>前回評価結果：a</p> <p>責任者である園長のもと、事件・事故、自然災害、食中毒・感染症や不審者の侵入等の連絡体制を整備している。日常の保育の場である教室内は、想定される不測の事態や危険に対し、迅速・適切に対応を図る手順書を作成・掲示している。また、日常保育での事故・ヒヤリハット報告の情報収集は、発生要因の分析や再発防止策等に繋げている。加えて、担当者を定め設備、遊具や備品類の点検等を定期的に行っている。</p>	

<p>施設の取り組み内容</p> <p>救命救急、AEDの使い方の指導を職員が受講した。ヒヤリハットを記入することで大きな事故にならない様に毎職員会で議題に上げていく。バス登園の子は降りたらテラスに座らせチェック確認してから各部屋へ行くようにする。</p>
<p>継続評価結果</p> <p>主任以上の職員へネットを活用した研修により意識向上に努めている。</p> <p>リスク対応について、簡易版の危機対応マニュアルを職員間で読み合わせ、各クラスに備えている。近年問題となっている通園バスに園児が取り残されて事故につながる問題については、バス登園の子はバスを降りたらまずチェック確認し、その後各部屋に入るような対策をとるなど、安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。</p>

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

	第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	
Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a
<p>前回評価結果：a</p> <p>保育の提供は、基本となる全体の計画や関連する諸計画の推進及び設備等の環境・安全業務など、保育を実施するうえでの留意点や配慮すべき方法等を記載した手引書、手順書、マニュアルや月案、週案等を文書化している。なお、これらの文書は、誰でも何時でも活用できる環境を整備し、職員の違い等により保育の実施に差異がなく、より良い保育に繋がることを期待する。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>支援委員会を開きその子に合わせた支援方法を検討していく。行事等スケジュール日程は職員会で検討して決めている。朝礼では天候やその日の状況を確認しながら保育や、行事の実施をする。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>園の支援委員会での検討を経て、手順書、マニュアル等の整備が行われており、標準化への傾注は十分になされている。とりわけ本園固有の活動である『すいすいあそぼうデー』では、「子どもたちの遊びを徹底させる」「職員は手出しをせず見守る」「ここで得た知見を検討し必要な遊具等を次回までに考案・用意をする」を職員共通理解とし、標準的な保育活動として確立している。</p>	
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a

前回評価結果： a

文書化した実施方法は、保育方針・内容の変更や新たな要因、職員や保護者等の意見・提案に対し、指導計画の状況を踏まえ定期的に検証・見直す仕組みを整えている。なお、手順書やマニュアルの見直しを行った場合、文書の末尾等に改定日を付記するなど最新の内容が確認できる取組を期待する。

施設の取り組み内容

行事の後で保護者に感想を書いてもらい次に生かすようにしている。役員会で保護者の方から出た意見は職員会に下ろし全体で考えていく。今年は「駐車場出入口にミラーが欲しい」と意見が出たので設置した。

継続評価結果

標準的な保育方法についての見直しは、支援委員会更には職員会を経て行われる。実際については、意見を出し合うことを大切にしており、職員間で自由闊達に論議されるだけでなく、保護者からの意見も大切であると考え、とりわけ行事後を利用し、意見・感想を書いてもらい参考としている。

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。

a

前回評価結果： a

指導計画策定の責任者を置き、職員の役割分担・決定する体制を確立している。アセスメントは定めた日程等により進め、クラス等の指導計画や個別の指導計画に反映する仕組みを整えている。特別に支援を要する事例については、園長等からなる支援委員会のもと、関係機関との連携や保護者の意向等に留意し策定している。

施設の取り組み内容

支援児のサポートブックはマニュアルに従って作成し、保護者と面談しながら成長に合わせて見直しをしていく。発達センター、相談センター、健康推進センター他、各機関と連絡をとったり、面談をしている。必要な場合は発達検査を行い支援や配慮に繋いでいる。

継続評価結果

全体的な保育計画や個別支援計画の策定にあたっては、責任者を中心に役割分担がなされ、組織的に実施される。まずは保育日誌等による子どもの育ちの確認、園内外の保育に関わる環境の再認識、そして保護者からの意見聴取を大切なアセスメントの因子としている。またいわゆる「気になる子」については、市内の発達支援センターの協力を得て、発達検査等の情報や専門的視野からの意見を、保護者の了解のもとアセスメント資料として蓄積をしている。

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	
Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>文書管理責任者を定め、管理規程のもと安全管理、保存、廃棄等を行い、市が指定する文書にあつては、「子ども園文書保存年限一覧」に基づき対処している。また、記録は統一した方法等で行い、職員により記録内容等に差異の無いよう努めている。なお、子どもが関係する所定の文書は、手書きにより記録している。なお、一部パソコンを活用した文書の策定を行っているが、今後子ども達の記録が電子化されることも想定され、これらの安全管理の取扱いについて検討を期待する。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <p>プライバシー保護マニュアルを見直し職員に周知している。ホームページやお便り等に写真掲載するので保護者の方から承諾の有無をとっている。</p>	
<p>継続評価結果</p> <p>記録文書等の取扱いについては、文書管理規定に従い、また文書管理責任者の設置により、安全性が十分に保たれているものと考えられる。とりわけ個人情報の漏洩には注意を払っている。当園ではお便りの他、ホームページやキッズビュー等の電子機器を用いた情報提供が、保護者だけでなく地域住民へももたらされる。そこで、事前に保護者の了解をとるといった手段により、個人情報保護には最大の注意を払っている。一方保育記録等については、統一化、電子化が進められている。</p>	

評価対象Ⅳ 保育内容

Ⅳ-2 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

	第三者評価結果
Ⅳ-2-(5) 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>保育指針の基本事項に基づき「3つの視点」を定め、安心、安全で豊かな保育の行われていることが窺われる。現在0歳児は2名在籍しているが、1歳児と同じ空間で生活をしている。担任保育士は、それぞれの子どもの状況に配慮する一方、多くの環境的刺激を享受できるよう心掛けている。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児の3つの視点を理解し健康に気を付け、安心の元で生活とあそびが広がっていくよう環境を整える。 ・ 0歳児の部屋は職員室の隣に配置して緊急の場合に備える。 	

継続評価結果 0歳児と1歳児は合同クラスで保育しているが一人ひとりに合わせた保育や多くの環境的刺激を享受できるような教育的配慮がなされている。担任保育士はそれぞれの子どもに状況に配慮する一方、園児のできてきていることを発見し保育につなげる姿勢を心がけている。	
IV-2-(9) それぞれの子どもに在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p>前回評価結果： a</p> <p>遅くまで園に留まる児に対し、寄り添っていかうとする保育士の姿勢は十分窺い知ることができる。ただ引き継ぎについて、不十分ではないかと心配をしているようである。多忙さの中、時間的人員的制約もあり、完全を求めることはできないかもしれないが、今後とも工夫と努力に傾注していただきたい。</p>	
<p>施設の取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 16:30～17:30 迄は以上児と未満児に分かれ、子どもの安全や気持ちに配慮している。 ・ 16:30～17:00 迄は戸外で遊び、また室内では絵本の読聞かせや自由遊びをして過ごしている 	
継続評価結果 16:30 からの遅番へは担任からはメモも活用し引継ぎを行っている。保育者は、家庭的で穏やかな環境を意識し、子どもが寂しくならないよう声掛けを行っている。気になる点については連絡ノートに書いてすませるより、直接保護者と言葉を交わし、子どもの様子を伝えるよう心がけるなど、子どもや保護者へ寄り添っていく姿勢がある。	